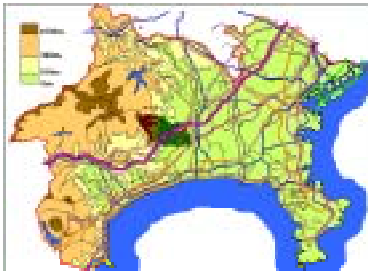


「選択教科2度目の挑戦」



伊勢原市立山王中学校 教諭 永山満夫

nagaman@air.ne.jp

1. 削減されたと言われる教育課程の実際(第3学年の例)

旧

新

	月	火	水	木	金	土
1	社	道	英	社	英	英
2	数	国	国	理	社	保
3	理	理	数	保	理	数
4	英	保	音	数	国	
5	選	技	特	美	総	
6		技		国		

	月	火	水	木	金	土
1	国	社	道	社	技	
2	選	保	保	英	技	
3	社	美	英	国	保	
4	音	理	理	理	国	
5	特	英	数	数	総	
6		数	総	選		

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	選択	総合	合計
旧	4	3	4	4	1	1	3	2	4	1	1	1	1	30
新	3	3	3	3	1	1	3	2	3	1	1	2	2	28

実際は...

1週間当たりの授業時間

$$\text{旧: } (45 \text{分} \times 5 \text{校時} \times 3 \text{日}) + (45 \text{分} \times 6 \text{校時} \times 2 \text{日}) + (45 \text{分} \times 1.5) \\ = 1282.5 \text{分}$$

(毎時間の「ゆとりの時間」を5分、放課後の活動に充てていた。)

$$\text{新: } (50 \text{分} \times 5 \text{校時} \times 2 \text{日}) + (50 \text{分} \times 6 \text{校時} \times 3 \text{日}) \\ = 1400.0 \text{分}$$

1教科当たりの年間授業時間

旧	週3時間の教科 $3 \times 35 \text{週} \times 45 \text{分} * 28.5 / 30$	= 4488.75分
	週4時間の教科 $4 \times 35 \text{週} \times 45 \text{分} * 28.5 / 30$	= 5985.00分
新	週3時間の教科 $3 \times 35 \text{週} \times 50 \text{分}$	= 5250.00分
	週4時間の教科 $4 \times 35 \text{週} \times 50 \text{分}$	= 7000.00分

さらに授業時間確保のために...

半日日程の削減

- ・長期休業前の午前中2週間を1週間に
- ・行事(体育祭・文化祭)の準備期間2週間を1週間に
- ・定期試験3日間を2日間に
- ・個々面接は、3日間から2日間へ

選択授業の活用 英語、数学の例

- ・英語 必修3時間 + 学校選択1時間 + 個人選択1時間 = 最大5時間
- ・数学 必修全クラス少人数授業3時間 + 選択1時間 = 最大4時間
+

実態として、増えた時間によりできること、すべきこと

時間が増え、内容が削減されたということ

- ・定着度の低い学習者 - 基礎・基本の定着のために、絶好。
- ・定着度の高い学習者 - 満足が得られないのでは？

そこで、生徒個々の進度や興味に応じた学習環境・内容の提供が必要。

- 例) ・習熟度別**少人数クラス**
- ・履修教科の**個人選択**
 - ・個人の課題設定による**総合的な学習**

2. 選択授業2度目の挑戦

1度目は... 選択履修の幅の拡大(平成元年3月指導要領改訂)

【3年選択教科の扱いについて】

1990.2.21

教務部

[英語]

1案:担任、副担任、補欠体制による授業。

2案:英語科担当教員の増員

教頭に英語の授業をもっていただき必修授業の中に組み込む。

他教科の先生に英語の授業をもっていただく。

[技能教科]・技能4教科から選択。

当時の伊勢原中学校教務部文書より

選択教科の拡大が行われたが、このような趣旨を指導要録の**評価**にどのように具体化するかが課題となっている。

我が国の文教施策 - 平成2年度 - 文部省

その結果 . . .

- ・「音楽」「美術」等の名称のみで内容の提示が無く、必修教科の延長のイメージがあった。
- ・教科が限定されたため、本当に選びたい教科を選べない。
- ・人数調整のため、本当に選びたい教科を選べない。

- ・評価が伴わず、選択教科への意識が薄弱 = 「遊び」の時間
- ・当時の生徒指導上の問題と相まって、**授業離脱者**の大量発生

大失敗

文科省提示の典型的な3パターン

「課題解決的学習」

「補充的学習」

「発展的学習」

学校方針

- ・前年度に生徒の事前希望調査を実施。
- ・具体的な内容を選択時に提示。
- ・人数調整をできるだけしない。
- ・より多くの教師が、選択教科に関わる。
- ・教師側も、自分の特技や個性を生かそう。
- ・基準・規準 / 到達目標によりしっかりとした評価を。

設定された選択教科と希望者の人数

教科	内 容	人数
国語1	落語・・・表現力を高め、発表しよう。	1
国語2	漢字について学ぼう(検定に合格) / 小説、詩の創作。	39
数学1	計算や図形について1, 2年の復習から、じっくりやります。	18
数学2	課題学習、難しい証明問題、立体図形、統計に挑戦。	26
理科	泥団子作り。身の回りの科学を知ろう。理科検定に挑戦。	22
音楽	混声合唱で美しいハーモニーを。	41
美術	七宝焼き(基礎からブローチ、ペンダント等を作ります。)	17
家庭	コンピュータを使って、レシピを作ろう。料理について調べよう。	12
英語1	英語、まずい。やり直したい人向け。1, 2年の復習から。	31
英語2	インターネットや翻訳ソフトで、海外の学校と友達ができるかな。	21

年度途中でのコース変更可能。

インターネットで英語の学習





Forbes Elementary School

生徒の到達目標

- ・コンピュータの電源を入れたり、消したりできる。
- ・自分に必要な情報を見つけ、そのホームページを開くことができる。
- ・自分でメールを出すことができる。
- ・わからない英単語の日本語の意味をインターネットを使って調べることができる。
- ・日本語の文章をインターネットを使って英文に翻訳する方法がわかる。
- ・伊勢原市の姉妹都市のホームページを開くことができ、そのアドレスがわかる。
- ・姉妹都市にある中学校の名前をひとつ以上見つけられる。
- ・英文で自己紹介を書ける。
- ・交流を始めた中学校の生徒との Buddy System の中で、e-mail friend を見つけることができる。
- ・日本の文化を紹介できる。
- ・オーストラリアの生活について質問できる。
- ・英語で書かれた文章を、理解しようとする。
- ・自分の表現したいことを英文で書こうとする。
- ・届いたメールに対して、できるだけ速やかに返事を書こうとする。
- ・my buddy を大切に思う。

指導者の目標

指導者が、情報を集約し、また提供するのではなく、
生徒が自然に自分の力でコミュニケーションを継続しようとする意欲を育むこと。

教師の支援

ひとり1台のパソコン環境

メールサーバーの設定、あるいはフリーメールアドレスの検討

ホームページの開設

わからないことがあった時の解決方法を共にさぐる。

交流相手校を探す

相手指導者との打ち合わせ

ALT の支援を得る

こんなホームページ under construction です。

web page of Sanno J.H.S から web page of Forbes and Sanno へ

メールの紹介 605yusuke

メールのログから、web page へ
テーマを発展させて



Yusuke Iizuka

Yoshiyuki
Kotzumi

備考

- ・「ネイティブでも英語を間違える。」という発見に喜んでいる。
- ・「書くこと」の大切さの再確認。
- ・「仮想」から「現実」へ： 「直接会ってみたい。」 「オーストラリアに行こう。」
ひとり、この冬休みにオーストラリアに行きます。

課題

- ・フリーメールのログを指導者がどうとるか。
- ・インターネットインフラの安定化
- ・時間の確保